

コラム

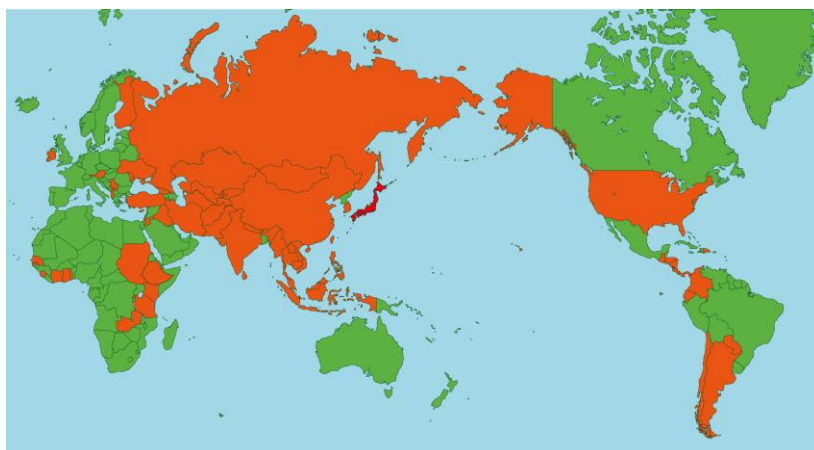
ユネスコ世界ジオパークに認定された地域には、世界各地のジオパークと情報を共有し、より地域に適したジオパークになるよう、積極的な国際交流や協力などが求められています。洞爺湖有珠山ジオパークは、どのようなことで各地域と協力していけるのでしょうか？

洞爺湖有珠山ジオパークには、活火山と長く共生してきた地域の歴史、減災文化、研究、地域資源を観光につなげる方法等について学ぼうと、世界中からたくさんの方が研修にやって来ます。

当地域が世界ジオパークに認定された 2009 年から今日まで、その数なんと 63 か国、599 人！

洞爺湖有珠山ジオパークは、減災教育や、大地の恵みを活かした地域づくりを実践する地域として、世界各国にアイデアを提供しています。

視察・研修で訪れてくれた方々の国



最新情報

インドネシア・ジャワ島中部のムラピ火山は 4～5 年に一度噴火を繰り返す活火山で、直近では 2006 年と 2010 年に大噴火を起こしています。そのため、洞爺湖有珠山地域と同じように、いかに火山と共生し、安全で豊かな暮らしをしていくかが地域の大きな課題となっています。

10 月 17 日～19 日、インドネシア・ジャワ島で復興を担当する自治体職員 3 名が、地域防災活動を行っているジオパークの取り組みを学ぶため研修に訪れました。当地域で減災教育を実践している火山マイスターネットワークが受け入れし、活動内容の紹介や、被災遺構の案内を行いました。当協議会からは、地域の話題提供として、『ユネスコ世界ジオパークについて』と『火山マイスター制度ができた経緯』を紹介しました。



ジオパークとは、大地の成り立ちと、自然、人間とのつながりを楽しく学ぶことができる地域のこと。
国内には「ユネスコ世界ジオパーク（国際認定）」が 8 地域、「日本ジオパーク（国内認定）」が 43 地域あります。